

# 清水宏先生、表皮水疱症研究の受賞、おめでとうございます。

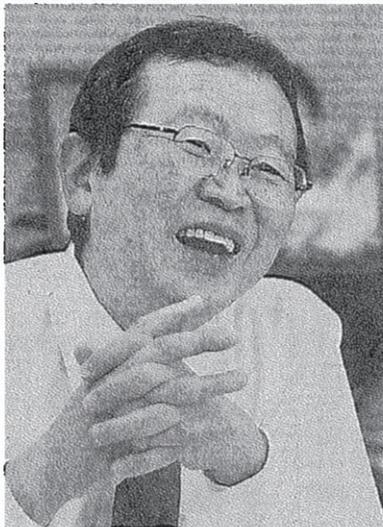
表皮水疱症の治療開発に、患者家族が希望をもって生きています。  
一日も早く、この堪え難い痛みと障害から解放される日まで、  
がんばってください。私たちも前向きにがんばります。



北海道新聞

2015年(平成27年)8月25日(火曜日)

ひと 2015



しみず ひろし  
**清水 宏 さん**

表皮水疱症の治療法開発に取り組む

寝返りなどのわずかな刺激で皮膚に水疱(水ぶくれ)ができる難病「表皮水疱症」を研究。治療法の開発などが認められ、秋山記念生命科学振興財団(札幌)の財団賞に選ばれた。9月の贈呈式を前に「共に研究した仲間のおかげ」と謙遜する。

研究にまい進するようになったきっかけは1987年。2年間留学したロンドンで、手足の指が癒着し、全身がただれている重症患者に出会った。痛みに苦しみ、自由に歩けない人がばかり。「こんなに簡単に皮がむけるのかと衝撃的だった」

慶応大助教授から、99年に皮膚科教授として北大へ。表皮水疱症研究の第一人者として、国内やアジアの患者を診察してきた。患者の一人に「患者同士が痛みを分かち合う場が必要だ」と呼び掛け、2008年の「表皮水疱症友の会 デブラジャパン」設立にも携わった。

治療法は確立されておらず、患部のガーゼ交換など対症療法のみ。根本的な治療法を見つけないと研究を重ね、10年に世界で初めて、骨髄移植が有効だとマウス実験で突き止めた。現在は患者の正常な皮膚を培養して皮膚のシートを作り、患部に貼る治療法の研究を進めている。

表皮水疱症の重症患者は国内で約500人と少なく、患者数の多い疾患に比べて研究費を確保しにくい。だが、「必ず自分の手で治療法を確立し、患者さんを救いたい」。東京都出身。皮膚科医の妻と札幌で2人暮らし。60歳。(上野香織)



NPO 法人表皮水疱症友の会 DebRA Japan

[www.debrajapan.com](http://www.debrajapan.com)

私たちは、蝶の羽のように脆く剥がれ続ける表皮水疱症の治療研究に協力し、患者と家族の医療的・社会的・精神的な拠り所として世界的組織 DEBRA International と連携。脆弱皮膚ケアの抱える課題と、QOL の向上に取り組む特定非営利活動法人です。

The poster made by members of DebRA Japan.  
新聞報道を見て表皮水疱症友の会の皆さんが作成してくれたポスター